

歴博くらしの植物苑だより



くらしの植物苑観察会

第98回 5月26日(日) 13:30~15:30

「ハンカチノキとメタセコイヤー生きている化石」 百原 新(千葉大学)

第99回 6月23日(日) 13:30~15:30

「シーボルトとくらしの植物苑」 辻誠一郎(東京大学)

くらしの植物苑今週の見どころ <http://rekihaku.ac.jp>

春のカエデ展示中



江戸時代には葉変わりの選抜が行われた。とりわけイロハモミジ、ハウチワカエデから多くの品種がうまれた。芽吹きが赤いもの、黄葉の美しいもの、葉が掌状型、掌状深叉型、細掌状深叉型、羽扇状型、などを見ることができます。

伊勢ナデシコ

展示中

ウンシュウミカン (ミカン科ミカン属)

ミカン属のマンダリン類で、日本の代表種として栽培されています。かんきつ類のなかでは寒さに強いほうで千葉県以西の海岸地帯で栽培されています。



ユズ (ミカン科ミカン属)

かんきつ類のなかでは日本の代表的調味用で、料理によく利用されます。果実面が粗いことから古くはオニタチバナと呼ばれました。常緑の直立性でかなり大木になります。花弁は5枚でわずかに芳香があります。



タチバナ (ミカン科ミカン属)

ただ一つ日本原産とされるかんきつ類でヤマトタチバナともいいます。常緑の小高木で5枚の花弁があり、かすかな芳香があります。文化勲章はこの花をかたちどっています。



カキ (カキノキ科カキノキ属)

カキは果実を食用にするために広く栽培されています。菓子として調味料として古くから栽培されてきました。苑内にはシナノガキ、マメガキともいいます。果実の大きさが1.5cmと小さく、熟すと黄色から紫色になります。霜にあたると甘くなりますが、それまでは渋いです。未熟の果実から渋を取るために栽培されていました。



トベラ (トベラ科トベラ属)

日本の暖地海岸に分布する雌雄異株の常緑低木です。節分にこの枝を門に挿して魔よけにしたことからこの名がついたとされています。



雌花



雄花

ナツロウバイ (ロウバイ科ロウバイ属)

ロウバイ属のなかでは、夏近くに咲く種類です。ロウバイは黄色の花ですが、本種は白い大きな花が咲きます。

